滿洲日報

○報價

每月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增

○告白刊例

一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減　每張四百文

紅糖價錢五吊四百文至五吊
邊黃共上車三十餘輛
邊黃共來七十餘輛
元豆六吊九百至六吊八百

一洗石鹼　二打入　同三圓三十錢
一同　二十本入　同一圓七十錢
一袋眞綿　六枚入百袋　同一百三十圓
一改良半紙　一〆　價三圓
關東公司

一白味噌　正五貫入一樽　同二圓八十錢
一同赤　正十八貫入一樽　同八圓五十錢
一堅パン　七貫入一函　同九圓
矢野洋行

一メリヤス手袋　打　同三圓より六圓迄
一小供手袋　打　同一圓五十錢より五圓迄
一女シャツ　打　同六圓八十錢より十圓位迄
一小供シャツ上下　打　同九圓位より廿圓位迄

Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance, Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

料　一ヶ月以内　長期連掲減價面議

發行所　清國營口中盛街　滿洲日報社　(電話二九番)

告示

一來る三月五日迄在留日本人の種痘法部裏醫務所に於て無料施行す

月　日　營口軍政署

特別廣告

廣告

工事材料購買入札

第一號
一杉丸太　長七間ヨリ三間半迄取合　貳千百本

第二號
一條石　延長　四千五百丈

第三號
一砂　一千立坪

右每号入札ニ付ス入札希望者ハ當署土木係ニ就キ契約書案熟覽ノ上來ル三月十五日午前十一時入札保証金各自見積代金拾分ノ一以上相添ヘ入札書差出スヘシ

但即時開札ス

此契約ハ營口軍政官與倉喜平擔任ス

明治三十九年二月二十六日

營口軍政署

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本支店出張所

橫濱　神戸　東京　長崎　大阪
倫動　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話百八十番　支配人室
事務室

橫濱正金銀行牛莊支店

三井洋行

●精製白砂糖新入荷物あり

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請駕臨是荷者

倉庫部

今回倉庫所在地(青堆子精搗場上隣り河岸)の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候

(電話百二十八番)

宅合名會社分莊

運輸部

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印幷一切雜貨其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛棧院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷模布手巾花巾東洋襪子洋縀鐵表貨物俱全而價値尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請屢臨爲幸

運般特得官准開設火車轉運行於東西兩店幷牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚

總司理人田中賴之助謹白　電話東店五五　西店一八三

三井洋行經理

明治火險公司

本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一被章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議　(電話六十八番)

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢彙代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜棧置有輪船一艘名域多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人　業亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房事及經理買賣雜貨布疋等物幷代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚邇邇知之
正理事稽玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專營裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致誤
本主人敬啓

仁裕號

係裝運各帮火輪船生意兼賣各制洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北營乙第十三號

元茂盛

油坊買賣元豆豆油豆餅雜色糧石以及代客賺辦雜貨布疋一概發行裝運沙船烟船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北營乙第四十九號

代代木烟公司

本行專售日本官造紙烟星象牌(斯違)櫻花牌(披莉)百合花牌(利利)均已馳名內外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌(隆沾來福)清香撲鼻佳美適口而價値極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

賣捌竝廣告取次所

大連市穩岐町三百三十八號
日華運輸公司

大連市盤陽城四欒九番地
岡野新聞舖

奉天大南門內景祐宮胡同
全泰號

遼陽遼俱町十
谷口今朝太郎

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口　瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白

營口瀛華實學院

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、箱根水
上等石炭

以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也

松茂洋行商業部
河岸通(電話五十二番)

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸　但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續　但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一鈔關手續　但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業

右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候

營口西北街第二七二號
大淸通運公司
營口支店

大日本政府特定
營口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣

江副洋行

營口永世街

和泉洋行

本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、錢子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價値格外從廉克已、凡中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、

大阪府堺市熊野町　藤原謹啓

田中牛莊分莊

啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉　賜顧者請光臨本舖面閱是幸

田中牛莊分莊謹啓

材木販賣
荒物

秋田洋行

營口永世街第一八四號平野町

本店　下關　秋田寅之輔商店

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久己馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不惧再本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需國本主人啓

東洋號運貨局

本局新設新民府今經官准由新民府至奉天輕便鐵路開辦運貨凡鐵路運貨比之車運速而廉衆人所知也本局所辦事宜誠實爲旨懇切受托童叟不欺且運費格外公道以籌貨主之利便不論貨種多少論担算或論噸算均可倘有遺失壞本局照價賠償若需客票本局亦可人代買如蒙仕商賜顧請至本局或奉天支局面議寄貨可也特此週知

新民府輕便鐵路火車站東洋號運貨局本店
奉天輕便鐵路火車站東洋號運貨局支店

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候

三井物產合名會社
牛莊支店
(電話六十八番)

電氣諸機械

大販賣

本店　天津日本租界電話二〇〇
支店　營口永世街甲二一五號

三友洋行電機部
(電一五四番)

主任　朱牟田寅吉

東京電報

●外相の辭表呈出 外務大臣加藤高明氏は今回内閣々議にて決定したる鐵道國有問題に關し他の閣臣と意見を異にし昨夜決然辭表を呈出したり

●恩給廢兵二法案の提出 政府は軍人恩給法改正案及び癈兵院法案を議會に提出せり

●二年兵役建議案 進歩黨は二年兵役建議案を提出せり

●伊藤統監の着期 伊藤統監は二日午後四時京城に到着の豫定なり

(以上三月二日發電)

●末松男樞府に入る 男爵末松謙澄氏は樞密顧問官に任命せられたり

●原氏外務轉任說 加藤外相鐵道國有案にて意見合はず辭表を差出せる爲め内務大臣原敬氏外務に轉ずべしとの說專ら高し

●露國國會開期 露國國會は五月十日前に召集せらるべしとの報道ありたり

(以上三月三日發電)

北京電報

●獨乙の暴徒防禦 獨乙は暴徒防禦の爲め砲一門を天津より取寄せ据付けたり

●革命黨打入の風說 革命黨五百人北京に打入らんとの風說傳はりし爲め巡羅は實彈を込めて警戒せり

(以上三月三日發電)

鐵嶺電報

●鐵嶺軍政官の任命 故川崎軍政官の後任として橋口歩兵中佐鐵嶺軍政官に任命せられたり

(三月三日發電)

倫敦電報

●佛國練兵期日減縮 佛國衆議院は首相ルービエー氏が國家の實力を薄弱ならしむるが如き處置に與みすることを能はずとて大に反對せしに拘はらず一百七十四票に對する三百四十四票の多數を以て豫備兵の毎年練習を十五日間に地方軍隊の練習を六日間に減ずべきことを可決せり

●無線電信局設置 英國海軍本年度の豫算案には三千ヶ所の無線電信局設置の項目を加へ香港も亦た其内に在り

●濠洲の義捐金募集 濠洲メルボルンに於ては日本國饑饉地方救濟の爲めに寄附金募集を開始せり

(以上三月一日發電)

雜報

●靖國神社合祀 日露戰役に於て戰死若くは戰傷後死亡したる軍人軍屬にして昨年五月靖國神社へ合祀洩の者及び其の後沙河、奉天、日本海其他の戰役に於て戰死若くは戰傷後死亡したるものは今回同神社へ合祀さるゝことゝなりたるが其の人員は三萬千二百餘名なりと云ふ

●海軍の論功行賞 海軍の武功調査は既にに大部分結了を告け未濟の分に對しても主務省に委員を增置して其進行を急ぎ居る由なるが調査結了せるは艦隊司令部其他の幹部にして最近に御裁可發表さるへき都合なりと云ふ其內容は秘密にして知るに由なきも傳ふる所に據れは東鄕大將の功一級幷に伊東元帥、山本大將の東鄕大將と同しく功一級に陞叙せらるへきことは間違なかるへく隨て司令長官たりし各中將は槪して功二級に叙せらるへし又佐官中殊勳を奏したる二三の將校は特に功三級に叙せらるゝやの說あり

●昨年の米實收高 農商務省は昨三十八年中の米實收高を公表したるが同表によれば昨年の實收高三千七百八十三萬五千五百七十一石にして之を前年に比すれば千三百十九萬四千六百五十石即ち二割六分五厘の減收を示し平年に比すれば六百五十五萬二千四百四十五石即ち一割四分八厘の減收なり是れ各地とも大槪天候不順にして往々水害を被むり殊に東北地方は未曾有の凶歉を來したために非常の減收を見るに至りしなりと

●眞韮總督後任 ライト氏は日本駐在米國大使に任せられたるを以て本年六月迄は副總督イデ氏代理たるも五月に至らば現任文部卿シーヒスミス將軍眞韮總督たることに內決せりとスミス氏は米西戰爭開始の際には桑港にて辯護士たりし人にして米國有數の政治家なりと云ふ

●非律賓の關稅法 米國代議院は煙草砂糖米を除く外非律賓よりの輸出を無稅とせり而して右三品の輸出稅は二割五分として輸入稅は之を免除することゝなれりと

●東淸鐵道會社の經營 米國紐育市のエム、サーゼー、フリード氏は東淸鐵道の荷物旅客課の外國總務代理人に雇聘ぜられ目下神戸に到着して事務所開設の準備中なるが鐵道會社に於ては其汽船を以て東洋諸港より浦鹽港を經て鐵道に迭る海陸聯絡案は既に悉皆確定し氏に於て其の事務を擔任する筈なり氏は又見込次第にては其の汽船數隻を神戸に寄港せしめん考へありて目下其の取調中なりと

●凶作地の窮民 東北三縣の凶作地に於て現に生活に困難しつゝあるもの及び將來困難するに至るべしと豫想さるべき窮民の數に付て內務當局者の調査したる處を聞くに左の如し

		現在	將來	計
宮城	戶	八、〇〇〇	七、〇〇〇	一五、〇〇〇
	人	四二、〇〇〇	三八、〇〇〇	八〇、〇〇〇
福嶋	戶	一〇、四〇〇	八、〇〇〇	一八、四〇〇
	人	七六、〇〇〇	五〇、〇〇〇	一二六、〇〇〇
盛手	戶	一〇、七九一	一四、九七八	二五、七六九
	人	五七、九三八	八八、〇〇〇	一四五、九三八
合計	戶	二九、一九二	二九、九七八	五九、一六九
	人	一七二、九三八	一七六、〇〇〇	三四八、九三八

●滿洲の側面觀 (在營口某政治家の痛嘆)

▲今日の靜平 日露の戰爭終結し其の兩國の交戰に依り直接に將た間接に利益を收穫せし淸國幾十万の下等人民、就中所謂苦力が今日に於て尙は靜平を守り敢て騷擾の体を顯はさゞる者は固より之を我軍隊の未た各地に駐屯するの力に歸せさる可らす軍隊一度凱旋し武力の復た恐るに足る者無きに至らば彼等は必然、時を得顏に三省の各地に橫行し以て掠奪を逞ふすべし此時に及べば彼等も亦た馬賊の一種也

▲馬賊の本性 馬賊は我昔時の所謂雲助也元と愛國の心あるに非す正義を知り人道を解する者にも非す既に然り從て又た日本の愛すへきを知る者にもあらす、露國の惡むべきを知る者にもあらす日露の交戰に當り彼等に於て若し日本に好意を表したりとせば即ち日本の勢力に組みしたる者、否ざれば復た日本の利益に付きたる者也、彼等の眼中唯たあるは利益のみ、恐る可きは獨り勢力のみ、豈に日本軍たるの故に特に同情を表し日本人たるの故に殊に好意を持つ者ならむ、

▲馬賊の出沒 馬賊を觀て以て單純に日本に同情を表し邦人に好意を持つ如く解釋するは所謂空想の觀察也、今日に於て彼等か未た深く日本人に禍せさるは恰も多數苦力の靜平と同しく復た實に我軍隊の尙は各地に多數駐屯せるあるか爲めのみ、即ち若し吾か軍隊の大部分か內地に凱旋せんか彼等は再ひ罪惡の先驅となり獰惡の本性を發揮して以て所在に隱顯出沒し其の毒威を逞ふせされは止まさるへし

▲同胞の遭難 此時に當り同胞は果して能く馬賊の危害を免れ得へしとなすか、思ふに、愛國の精神無さ、是非の識別力を持たさる彼等は日本人を觀る事復た恰も露國人を觀るか如けん護衛に乏き日本人に望むは官憲の保護乏き土人に望むも異る所あらさるへし、請ふ試に之を今日に徵せよ、今日は未た彼等か一体に帝國の武力に屛息威縮して「其鋒鋩を顯さゝるの時」也然かも、同胞の彼等の爲に迫害せられつゝある者は少からさるに非すや今を去る拾余日前、鐵嶺の旅舘に於て同胞三人を襲ひ擊ち就中、一人をして人事不省に陷らしめし者も、彼等の一派に非すや更に同鐵嶺に於て城內步行の同胞目掛け後方より切り附けたる者も、亦た附近を橫行せる馬賊也若し夫れ新民府附近に於ては此種、同胞の遭難寔に頻々數ふるに遑あらず多數我軍の殘留せる今日に於て尙ほ且つ斯の如し將來の事唯た夫れ推す可きのみ (未完)

●聞見一二

▲北淸事變以前の在住同胞は皆な信用があつた、其後東松洋行や、福富洋行に支那人に對し多少の不信の行爲ありたりとて一体に少しく信用を減少せしも固より今日の比較では無かつたと或人は物語つた、

▲北淸事變後に於て牛家屯に四十名斗りの日本婦人か舞込み露國人相手に頻に愛嬌の安賣を營むで居つたが時の在留日本人の組織に係る同心倶樂部の倶樂部員等が遙々遊ひに行けは何時も樓主か言を左右に托して登せなんだそふな、其の理由は當時退淸の處分權を握つて居る者は領事であつたから滅多に倶樂部員等を登せて惡事を發見され領事に吹き込まれ退淸の處分にでもされば大變だと云ふに在つたそふな是で見ても當時は官民共に如何に亦情か厚かつたか解る次第だ

▲今でも營口の貨幣は中々雜多であるが當時の營口は一層で在つた曰く、過爐銀曰く元寶銀曰くメキシコ弗曰く、露國紙幣銅錢曰く何、其れで各々其の貨幣に依つて使用の道か相違して居つたのであるから、新ひ商人は大抵面ん食つたと又或人は語つた

▲斯の如く流通の貨幣か區々であるから、內地から品物を輸入するにも細心の注意を要したそふな、少くも銀貨と金貨との比價に注意し過爐銀と元寶銀の差額に注目して居らねば大儲けに爲りたと喜んで居る品物も實際は大損と爲つて悲む事も少くないと此位の注意は今日でも深く支那人に切込むで商業しよふと思ふ人には皆な必要の事であろふか

ハシクの貨幣には何金で無ければいかぬとか、いや人足賃には其の金ではいけぬとか云はれては困難の狀態が轉々推察せらる

●滅火粉の試驗 去月廿六日日本領事館前に於て米國スター、フワイヤ、アツプライアンス會社員ベヤリング氏が滅火粉の使用法及び効力を試驗し公衆の觀覽に供したるとは其當時記載せる所なるが今其結果に就き聞く所に依れば最初高さ一丈四尺幅及廣さ六尺の木箱を立て內外兩面にチャンを塗抹し古新聞を張付け石油を注ぎて之を燃やしたるに火勢忽ち猛烈と爲り內外二百有餘の見物人は火勢に僻易し三間も飛び退れりベヤリング氏は猛進して滅火粉一鑵を投じたるに火焰忽ち滅却せるを以て見物人は更に一回の試驗を希望したるにべ氏は石油を藁に注ぎて之を燃やし前より一層猛烈なる火勢と爲し之に滅火粉四鑵を投げつけたるに火勢又忽ち消亡し非常の好結果を以て試驗を了したるが見物人の一人なる正金の中村氏は直に二ダースを營口軍政署は三ダース東盛和は十ダースを何れも即座に注文せり此滅火粉は褐灰色の粉にして八年前米國ハーレム博士の發明に係る化學上の化合物にして取扱上危險無きのみならず之を使用するも物品器と無きは特を具に其る越與ふ損功とする所なり錫製長二尺直徑二寸の圓筒に詰め込みあり重量三斤餘保存は二十個年は保つべく代價一鑵十圓一ダース百圓にて當地にては遠來洋行其代理店を爲す由嘗て在天津墺國領事館火災の節非常の効果を收め爲めに謝狀を得たる事あり無論同會社の專賣特許品と爲り居れるものなりといふ

●牛家屯軍人倶樂部閉會式 牛家屯駐屯輜重輸卒隊も愈々凱旋することゝ爲れる爲め軍人倶樂部も閉鎖することゝ爲り去る二十八日午后三時より佐藤牧師司會者と爲り閉會式を擧げたり當日の式場順序は、一、唱歌二、祈禱三、佐藤牧師の閉會の辭四、スミス、マツカスリン、ベチス三夫人の唱歌五、同部委員長黑澤氏の演說(日英兩國語)靑年會幹事グリソン氏夫妻の唱歌六、軍政官代理堀越大尉滿倉坂東一等主計守備隊第三大隊長津田少佐米國總領事サムモンス、營口牧師ウエブスター諸氏の演說あり、七、ウエブスター氏の祈禱を以て閉會し終つて立食の饗應あり將校及び下士卒は式場內に立錐の地無く集合し非常の盛會なりしといふ

●東西南北

●李公銅像開披式 去る二十一日上海徐家匯なる李鴻章寺に於て李鴻章の銅像開披式擧行せらる是は獨逸エツセンのクルツプ會社の代理者マンデル氏の李鴻章家族に贈りたるものにしてミユンヘンなるランゲ氏の設計する所に係るといふ

●革命主義者三割 ウヰツテ伯はノーウオエウレーミヤ記者に向つて滿洲軍が革命の火の手を高むると云ふは誤想にして革命思想を有するものは三割に過ぎず其餘は忠實の兵士なれば歸國後は國家の安全に利する所あるべしと明言せり

●御苑と友仙染め 京都御所の禁池を流れ出づる水は淸きこと限りなく近比京都染物業者の友仙染職工が此水にて友仙の仕揚げを洗へば其色一種の美を放つを發明したりとかにて夜々深更に及べば御苑內の流水に友仙を洗ふものあるより皇宮警察京都出張員は昨今偵察中の由

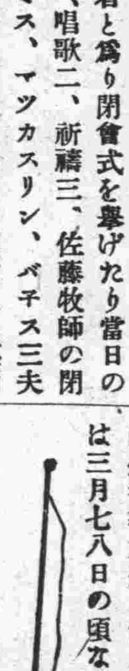
●碎氷船の不始末 浦鹽の碎氷船結氷に附着し商船の出入杜絕せりとの報に對し去る廿日門司入港のプレグロス號乘組船員の談に依れば碎氷船は附着したるにあらず近來監督不行屆きの爲め碎氷船乘組員は一日働らき三日休業し且つ上級船員は勝手に上陸して歸艦せざる爲め碎氷をなさゞるにありと

●ア孃の新婚衣裝 今回華燭の典を擧げたるアリスルーズヴエルト孃の新婚曠着は殆と善を盡し美を極めたるものにて是等は何れも孃か過般漫遊の途に上りし際各國帝王其他より贈與されしものにより紐育有數の裁縫師が入念に調製せしものにて中にも日本皇室より送られし帶の如きは最も高貴にして曠着の數總て十種なるが何れも東洋の織物を地とし是れに諸種の刺繡を加へ一世一代の盛裝は流石富豪を以て誇る米國貴婦人を壓倒するの調度なりしと

●櫻井大尉の審問 金州丸事件にて露國の俘虜となりたる步兵大尉櫻井久我治氏着京せるに依り近々審問に附せらるゝ筈なるが同大尉は參謀本部員なりしを以て審問委員は參謀本部部員中より選定せらる可し同大尉は目下自宅に於て謹愼中なり

●東都百花園の梅 向嶋百花園の梅は漸く花四分の眺めとなりて日々杖曳く者尠なからぬど薄星梅內裏梅其他の老幹は滿枝白玉餘寒に躊躇うて未だ笑はず東方の密篁には殘んの雪寒く軒端の老松颪に吹かれて龍吟するなど園內は春色四分冬季六分と云ふ有樣なれば暗香疎影の風情は三月七八日の頃なるべし

投書かご



▲萬月の小万と鈴子は毎朝ドテラの儘風呂屋へ行くが支那人や外國人に見られても恥かしくないか樓主の老爺チツト注意し給へ(毎朝實見生)▲東京樓のお玉は毎月三百圓は慥に儲けるが夫れにも係らず百圓位宛借金になつて居るとは如何なる譯けですか(色男)▲元神廟街の某支那女郎屋には日本人の女がチャンに化けて春を賣て居るとの評判事實なれは實に情ない女だ(曰くある者)▲三月十日は陸軍の大紀念日だそうですが我々在留民も何か愉快な思付をして大に祝すべしだ(有志者)▲營口に第一等の美味い料理を喰はす家は何處です(新渡來者)▲此間某女史が或る軍人を連れて日本館で大散財をやらかしたさうです餘り男勝りに亂暴が過ぎると人に指をさゝれますよ(名譽會員)▲自稱方正子が平野町を魔窟と言つたら質問生赫として怒り其名を擧げらうなんて怖ろしい權幕であつたがそりや御無理ですよ淸潔な家を擧げりや知らんこと(左袒生)

●火事 一昨夜十時三十分頃突然警鐘の亂打するに驚き馳せ行けば永世街憲兵宿舍前田原洋行裏手なる淸人某所有の落花生(一名南京豆)煎場より出火し今にも一大事に至らんとする所を憲兵及び消防夫の盡力により半燒にて消止めたりと原因は同日早朝より午後一時頃迄落花生を燒き其跡始末に火の消し殘りありたるより傍に積載せし薪木に延燒せしと云ふ一時は場所柄餘程大騷ぎをなせり注意すへき事なり

●藝妓酌婦に化ける 第三樓名古屋生れの玉吉事野田トウ(二十)及び小倉生れの光子事天滿トヨ(廿五)の兩姬裙はツイ一昨夜迄へイ今晩はと亡者連中のお鬚の塵を拂ふて居たが昨日突然其筋へ二人連れ達ちて藝妓鑑札を返納し改めて下婢の免狀を戴いたと云ふ口善惡ない町雀の評判、之れは何か謂れ因緣のある事と取敢へずX光線で睨んで見た所、成程御最千萬の次第自体誤兩裙は至つてレツテルの古物にて慥に十九世紀以前に出來揚りたる容姿從つて日本人には少々不向の姬裙故か誤贔屓筋も他の朋輩達よりも餘程少なく自然毎月の揚り高は梯子段で何やらから一番と云ふ面目なさ一時間大枚二兩の貴金は天を仰いても地に伏しても恥かしく夫れよりも仲居となれば例の沈沒料も安くお客も幾等かある譯と妙な相談が二人の間に結はれ斯くも昨日其筋の鑑札書換を願出たりと扨ても先見の明感服〱

大車

▲上行車時刻表
車站名 / 午前點分 / 到午點分
新民屯至溝帮子 上六、〇〇 上九、五七
營口至山海關 上八、二〇 下六、〇〇
山海關至青山 上一二、一八 下六、二〇

▲下行車時刻表
車站名 / 開午點分 / 到午點分
北京至山海關 上八、〇〇 下六、二〇
北京至天津 上一一、二〇 下五、四一

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表
大連奉天間 下り列車
驛名 發着時刻
大連 發午前 九、〇〇
驛名 發着時刻
遼陽 着午後 三、五〇 發 四、五五
大石橋 着 一〇、三二 發 一一、三五
金州 着翌前 二、二〇 發 三、一〇
大連旅順 上り列車
旅順 發午後 二、〇三
大連着 五、三二
營口線 下り列車

天 營口地方 自昨日午後六時至本日午後六時

日報倶樂部

●滿洲在留邦民の祝日　遼南漁長

奉天戰役は日露陸戰最後の大快戰なり、たとへ黒鳩公の大軍を袋叩きと爲す迄の大成功を收むる能はざりしとはいへ、而も此一戰によりて南滿洲に於ける我勢力の確立を見たる、以て其効果の尋常に非ざるを知るべし。乃ち我陸軍が此戰役に於ける戰況の最も良好なる三月十日を以て日露陸戰の紀念日と爲し、永遠に此光輝ある吉日を以て一般陸軍軍人の執務を廢して祝意を表せんとする、是れ事の宜しく然らざる可らざる所。然れども退て自ら思ふ、三月十日の陸軍に於て祝すべき大紀念日たると共に、一般國民は亦此日を以て國民的紀念日と爲すの要あらさるべきか、少くとも滿洲在留邦人は滿洲に於ける我利權の實際に於て確保せられたる此日を以て一般在留民の祝日と定むるの必すしも不道理として聞えさるに非さるべきか、是れ予輩が滿洲日報の讀者と諮りて正に來るべき戰勝後第一次の紀念日より決行して相當の祝意を表する方法を取らんとを主張する者、予輩が戰前に於ける滿洲在留邦人の狀態に顧みて而して今日を思ふ、多少のお祭騷ぎに類するとも、亦必ずしも一興に非すとせんや。

●詩的遼河　辻井紫川

詩的遼河!!何れの時季をや謂ふ、陽光麗はしき春の日かあらず、款靄風涼しき夏の日かあらず、蕭々たる風色人をして寂寥を感せしむる秋の日かあらず、吾人は淋しく嚴かなる冬の日、河氷堅く鎖して眼界は之れ玲瓏たる水晶盤となれる夜の景を詩的と謂はんとす。更闌け夜閑にして天地聲なく萬物自ら靜かなる丑巳の刻詩草を得へく獨江邊に盯める吾、仰で天を見れば紺碧濃く煌々たる星光燦たり爛たり、俯して一帯玻璃面の氷河に對へば其れに映る神々しき湛碧の空、燦爛たる星の瞬、眞に宇宙の審美、幽趣!!壯嚴!!深遠を表はして餘りなし、刹那吾人は詩神が秘奧の府を得て我が靈翼を伸べ蒼天に冲らむ心地したりぬ。

●吾人は一番の大死より出つ　供天生

天地氷雪を以て鎖されてより萬象完く冷澁したる滿洲も漸く將に陽蕩の氣運を催ふして爰に新春の實願はれんとす異郷冬籠の苦裡に在りたる幾多の同胞は街頭來往相逢ひ相會て健康舊の如く意氣顏容に溢るゝを觀る至幸と謂つべし顧みれは吾人は昨秋の暮に於て應に來るべき嚴冬と更らに進むべき商工業の消沈に向つて豫想を試みたるとき果して什麼なる感を以てしたる歟恐らくは樂天的にあらさりしなり而して今は心身の健康斯くの如く活動の氣裡より漏る何を以て事茲に至哉請ふ予をして之を言はしめよ曰く吾人は昨秋の終冬の始に於て一大覺悟を以臨みしなり此覺悟こそ吾人同胞が大死一番したるなれ絕後に二たび蘇りたるは即ち今日の狀態なり吾人は謂ゆる禪家の工夫を不知の間に行ひ得たるものなりと禪家は大死一番底の人にあらずんは抑も何事をか爲し得むと叫べり禪理眞とすれば即ち吾人滿洲在留の男女は何事をも爲し得べき人たるは疑議を容さす然り吾人は爲す有るの氣力と躰力とを有するを經驗し得たるものなり實に到水窮處坐看雲起的の人ならさるはなし滿洲の廣野は今や將さに吾人風雲裡に活動すべき時期に入らんとす在留の士女其業の如何事の大小を問はず各自是れより志す所に向て精進せよ警今に於て尙は漠然たるか如しと雖も而かも有爲なる諸君の力に賴り或る歲月を經て後ち顧みて帝國民は滿洲に於ける確乎たる地盤を造り得たるを知るならん乎

次猗堂翁悼亡詩韻　牢古　赤松　嚴

都門歲月幾推遷　桂玉支持客竈煙
忽遇病魔相拉去　人間無藥可延年」
儉勤不襲綺羅衣　訃至令人涕且欷
一婿一兒皆絕域　想渠千里夢魂歸

車上望狠烟臺　汝陰山樵

峻山起伏曠原開　更有天風捲雪來
一帶長墻看欲盡　憑窻指點古煙臺

山海關東門樓上題壁

袁海鎖山爲我實　誰知天步比年艱
弔來今古興亡跡　獨立長城第一關

遠征雜詩　犀陽稿

氣自豪
一擊千軍百煉刀　遠征何惧敵牆高
外交不愧無權術　議事將成氣自豪

硯池氷
月色茫々列宿德　陣頭飛筆硯池氷
風吹旗幟如雲捲　夜火星回萬點燈

鞭聲肅々
肅々鞭聲古柏陰　一騎進處月將沈
日軍眼整如山岳　槍礮交加無懼心

外交始末
以想平和死亦甘　英雄壯志對君談
外交始末非吾意　記否秋山兩後嵐

使君凡
到來新信解封緘　潑々飛々不入函
鐵筆所書單一句　外交當路使君凡

家庭雜話

食物としての大豆

▲燒芋か書生の羊羹であれば豆腐は書生の卵燒である豆腐といふ奴さんは四角い顏をして居るが中々愛嬌者で酒の肴にも爲るし下戶にも能く口に合ふそれに滋養分が非常に多いので懷の寒い貧乏書生が銅錢の二三文も帶にひつくるめてそつと裏口から豆腐屋に出掛けて竹の皮なんかに包んで恰も大獲物を得たかの如くに大恐悅で歸て來て早速火鉢にかけて熱燗でグツト一杯引被ぶるなんて能くある藝當である▲日本人の食物は前回にも言ふ如く淡白過ぎてどうも滋養分が少ない併し日本人が二千何百年も疏食をやつて居ながら今日の如き立派な國民の出來たのは一は魚類を食ふのと一は豆類を食ふからとである▲併し豆類は人體に非常の榮養を與へるが元來不消化物なので折角の滋養分が腹の中を素通して了ふ併し日本では自然の必要上早くから味噌と豆腐とに造くられてそれが甘く消化するとに爲つて居る豆腐が卵燒であれば味噌がチースかバツター位で又其味噌汁は牛乳かスープであらう昔の學者に炒豆のやうな不消化な物を噛りつゝさへ學者に爲つた者のあるのは其固有に滋養ある食物であるといふ事が解る▲豆は味噌と豆腐との外どうしても消化し得べきものにするとが出來ないかといふに全くさういふ譯でも無い比較的消化し易いものにすると丈は出來るそれは豆を一日か二日許り水に浸して能くふくらんだ頃に取り出し昆布を刻み込んで二時間許りも一緒に煮る醬油は適宜の頃を見計つて豆臭い香が失せる位を程度にして極めて少量を入れる醬油が多ければどうしても厭きが來るから少量の程がよい併し甘いのを好くならば砂糖を入れるもよい蓋物にでも取つて置て每食必ずやるのがよい▲營口といへば豆の本場を意味し豆の本場といへば營口を意味する位な豐富な處であるから何んでも豆を利用して厚生の道を啓くとが第一經濟向である（家庭子）

小說

新作小說　おとし嵐　德田秋聲

（四）

「貴方のお祖父さんに逢ふことが出來ない。」

此の言がまた、光の美しい心を濁らせた。彼女は、此の巨漢に向つて一點の疑を起したのである。それで、

「何故でございます。」と訊いた。

「いや、それは鳥渡お話し申すことが出來ませんが、兎に角お逢ひ申すことの出來ない事情があるのでございます。また貴方が此處で私に逢つたことをお話しなすツても可けません……然うすると、私が貴方の身を護れなくなツて了うのでございます。」

「何故なんですの。」

「何故でも然うなんです。ですから、只私を信じて下さい。」

譯も謂はずに信じろとは、隨分無理な注文と謂はなければならぬ。それで光も少し嫌な心地もして、疑の雲が段々濃になつて來るのであつた。雖然光は、何時もお祖父さんに、「人を疑てはならない。」と謂はれてゐるものですから、無理に疑を押付けて、そして自分の邪な心を叱り付けた。

その間に、巨漢はまた、

「貴方は、阿父さんを御存知ですか。」

「いゝえ。」

「御存知ありますまい。それでは阿父さんが何うなすツたか知ツてゐらツしやいますか……亡くなツたのか、それとも生きてゐらツしやるか。」

「知りませんの……だツて、お祖父さんは、些ツとも阿父さんのことをお話しなさらないんですもの。幾ら訊いても、決して有仰らないんですもの。」

と怨むやうな口振である。

「然うでせう、そりやお話しにならない譯があるのです。併し貴方には阿母さんがあるのですから、阿父さんもあるに違ないのです。また何處にも阿父さんのお墓が無いのですから、生きてゐらツしやるに違ありません。貴方は、何んですか。阿父さんに逢ひたうございますか。」

「そりや逢ひたくツてよ。夢に見ることさへあるんですもの……ですから、夢で見る阿父さんの顏は知ツてゐてよ。」

巨漢は、何か深く感動したやうに、熟と光の顏を見詰めた。

「夢で、阿父さんの顏を御存知ですツて?……そして其は、何樣な顏です。え、何樣な顏?……」

「何樣な顏ツて……」と謂ツて、光は、ふと巨漢の顏を見て、「何んだか貴方の顏に似てゐるやうに思はれますの……」

「私の顏に?……」と巨漢は、眉を顰めて、「私の顏に似てゐると有仰るんですか。それは不思議ですね。併し私は、貴方の阿父さんではありません。」

「然うですか。」

と光は、低い聲で、失望したやうに謂つた。

「ですが、私を阿父さんのやうに思つてゐて戴きたい。此の廣い世界に、お祖父さんを除いたら、眞箇に貴方の身を護らうといふものは、私しか無いんですから……」と謂つて、巨漢は、少時默ツてゐて、「實をいふと、貴方は、近いうちに、其の阿父さんにお逢ひなさるやうに事が運んで來てゐるのです。現に阿父さんの方から、今日お迎の者が來て、もう貴方のお家へ着いてゐる筈なんです。貴方は、多分向刻此村へ人力車の來たのを御覽なすツたでせう。」

「え!」

「那です、那が貴方をお迎に來た者なんです。雖然此のお迎と一所に、阿父さんの許へゐらツしやるのは何うかと思ひます。それで私は、阿母さんに對して默ツて居られぬ場合と思ツたものですから、先へ廻つて、貴方に此の事を申上げに參ツたのでございます。」

光の頭は、何時か低く垂れて了ツた。

何が美味であらうか

營口で何が美味であらうか簡短に記載して端書又は最寄投書函へ投入相成たし營業屋の自家推薦亦苦しからず……思ひ切て吹聽する程のものあらば

●小僧の手帳　世界鐵道の延長五十三萬哩其中米國が二十一萬一千哩我邦は五千哩で祝賀會

廣告

東北凶作地窮民捐者芳名義

天合盆孔明遠 銀十圓
哈駿聲 同二圓
郭羽臣 同二圓
興順金 同十圓
徐環五 同三圓
劉書紳 同二圓
慶豐號 同十圓
陳友生 同四圓
蔡偉臣 同三圓
世昌德 同十圓
李悟川 同三圓
程兆麟 同二圓
裕盛源 同十圓
寶寰海 同四圓
孫壽山 同一圓
劉遹臣 同一圓
石宴賓 同一圓
恒有長 同十圓
遇敬亭 同三圓
王樂亭 同二圓
恒有爲 同五圓
山硯堂 同四圓
甯香圃 同三圓
梁世傑 同二圓
義豐恒 同十圓
東盛仁 同二圓
尙福梓 同一圓
叢肇棟 同一圓
義順棧 同十圓
振昌棧 同十圓
福有長 同十圓
孫長發 同三圓
恒利德 同八圓
張岩溪 同三圓
劉毓錕 同二圓
源成東王創國 同五圓
解深蒲 同五圓
宏利和 同八圓
萬順魁 同六圓
柳夢齡 同二圓
大德亨 同六圓
慶隆豚 同六圓
公順東 同六圓
正祥孚殷蘭亭 同三圓
李林筌 同三圓
遇子豐 同三圓
遇振殿 同二圓
李金鑾 同二圓
豐盛合 同三圓
董會元 同一圓
德升恒 同二圓
楊瑞五 同一圓
何毓棠 同一圓
洪興盛 同二圓
姜溫泉 同一圓
鄭立和 同一圓
匯豐綸 同二圓
單寶亭 同一圓
邢晉三 同一圓
德茂脉 同五角
義和昌 同五角
恩記 同五角
泰合興 同五角
義順華 同六圓
于元春 同二圓
永協玉 同二圓
朱德厚 同一圓
孫佐臣 同一圓
九如豐 同三圓
王喜梧 同一圓
永興長 同三圓
戰文明 同一圓
泰順利 同三圓
鄭昌齡 同一圓

劉樹堂 同二圓
秦魁一 同二圓
唐子安 同三圓
于文池 同二圓
劉秀三 同三圓
姜立堂 同三圓
賀士秀 同二圓
宋子良 同一圓
譚松林 同一圓
楊子珍 同一圓
劉耕軒 同三圓
齊纖武 同二圓
王增智 同三圓
戰紹孟 同三圓
李吉緒 同一圓
丁仙芝 同二圓
楊祿林 同二圓
田新堂 同三圓
劉德成 同二圓
呂昆 同二圓
李儀臣 同一圓
楊潤泉 同一圓
馬正相 同一圓
劉文林 同一圓
林肇寅 同二圓
孫雲嵐 同一圓
范培芹 同一圓
劉銘齋 同一圓
許敬亭 同一圓

一銀三拾壹圓 セントニコラス會堂喜捨金（英國牧師スプレント氏）
計三百七拾圓
累計四千三百〇一圓九十五錢

競賣廣告

第一號 一二輪荷馬車 千參百輛
第二號 一二輪荷馬車輓具 五百副
第三號 一人挽徒步車 三千輛

此入札保證金は各自見積代金百分の五以上
右競賣に附し賣却す入札望の者は當所倉庫に就き（自午前十時至午後四時）間現品及入札心得書並に契約書案等熟覽の上來る三月二十日（自午前十時至正午）入札書差出すべし但即時開札す
此契約は門司野戰兵器本廠奉天出張所長西野雄太郎擔任す
明治三十九年二月二十日
奉天停車場南方約八百米突に在る（山西會館附近）
門司野戰兵器本廠
奉天出張所

拍賣告白

門司野戰兵器本廠奉天出張所茲於日曆本年二月二十日在奉天倉庫拍賣車輛願欲包攬者每日自上午十點鐘起至下午四點鍾止須到該處詳看車輛拍賣知及合同樣式限於三月二十日自上午十點鐘起至晌午須呈入札書即行開札再立此合同者爲門司野戰兵器本廠奉天出張所長西野雄太郎

計開

第一號 双輪搬貨馬車 千三百輛
第二號 双輪搬貨馬車用車套 五百副
第三號 人力單拉車 三千輛

承買者均須將各自估價一百分之五先交作押
明治三十九年二月二十日
在奉天停車塲東南方淸里一里半（山西會館附近）
門司野戰兵器本廠
奉天出張所

競爭入札廣告

第一號 生牛皮 約二千枚
第二號 生羊皮 約四百五十枚
第三號 生豚皮 約四百二十枚
第四號 鳥拉靴 約一萬足

以上廢品入札保證金各見積代金百分の五以上
右賣却す買受望みの者は二月二十五日より三月十一日迄に當支庫に出頭入札心得書契約書案及現品熟覽の上三月十二日午前十一時迄に入札書を當支庫に差出すべし即時開札す
此契約は滿洲軍倉庫奉天支倉庫長橋元勝造擔任す
明治三十九年二月二十五日
滿洲軍倉庫奉天支庫

拍賣告白

告白奉天滿洲軍支倉庫官署准於（日曆三月十二日中曆二月十八日）拍賣左開牛羊猪等皮貨有願包買者自日曆二月二十五日（中曆二月初三日）起至（日曆三月十一日（中曆二月十七日）止請到該署詳看貨物及呈單條規契約樣式等書限於日曆三月十二日午前十一時（中曆二月十八日上午十點鐘）呈單即時拆封定局　呈單者必要將價白分之五定銀先交作押　如無成局仍將原定繳還立契　官滿洲軍倉庫奉天支庫長橋元勝造

計開

第一號 生牛皮 約二千張
第二號 生羊皮 約四百五十張
第三號 生猪皮 約四百二十張
第四號 鳥拉靴 約一萬雙

明治三十九年二月二十五日
光緒三十二年二月初三日

營口旅館料理店案内（いろは順）

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號

旅館 第二營口ホテル 河岸通り

料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛

料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉

料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三軒

料理 沖の島 永世街百六十五號 店主 中川彌三郎

料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 料理 高砂ホテル

料理 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ（電話一四五番）

旅館 竹村館 永世街二十二號（電話五一） 店主 席田久二

旅館 大和館 永世街十一號 店主 前田九一郎

料理 滿洲樓 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

東京 生蕎麥 一式 東庵 元神廟（電話百五十九）

旅館 料理 金城ホテル 永世街百六十六號

料理 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎

料理 醉花園

旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 喜樂亭 營口元神廟街

旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署 御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎

さるそば 第一更科 營口元神廟街
さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角

御料理 柳亭

御料理 叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡益人

御料理 一力

並ニ溫泉 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 本店 松月亭 營口元神廟街一四三号

和洋料理 御旅館 支店 滿洲ホテル 遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業 營口ホテル支店 主任 井上源吉

御料理 會席 菊水館 主任 朝枝園揔

旅館 西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉

旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基

御料理 會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 凱旋亭 主任 古谷庄太郎

旅館 御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 玉家 主任 西野治三郎

御料理 會席 來々亭 主任 石田清

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成
營口金城ホテル
旅館部

藝妓 仲居 新來
金城館料理部

奉天小西門外
會席御料理
高等御旅館
金城館

旅館 富喜樓
室内は極清潔防寒之設備あり
鐵嶺驛へ滊車到着毎に日本人の案内者出張致し居候
鐵嶺城東門外南へ一丁余
南大街 樓主敬白

御旅館 豊陽館 上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米滊船乘船取扱
館主 米田藤吉

西海洋服店
歐米各國最新流行形
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

料理 滿月 平の町（電三三）
滿月支店 平の町（元都樓跡）
店主 青木勝惠

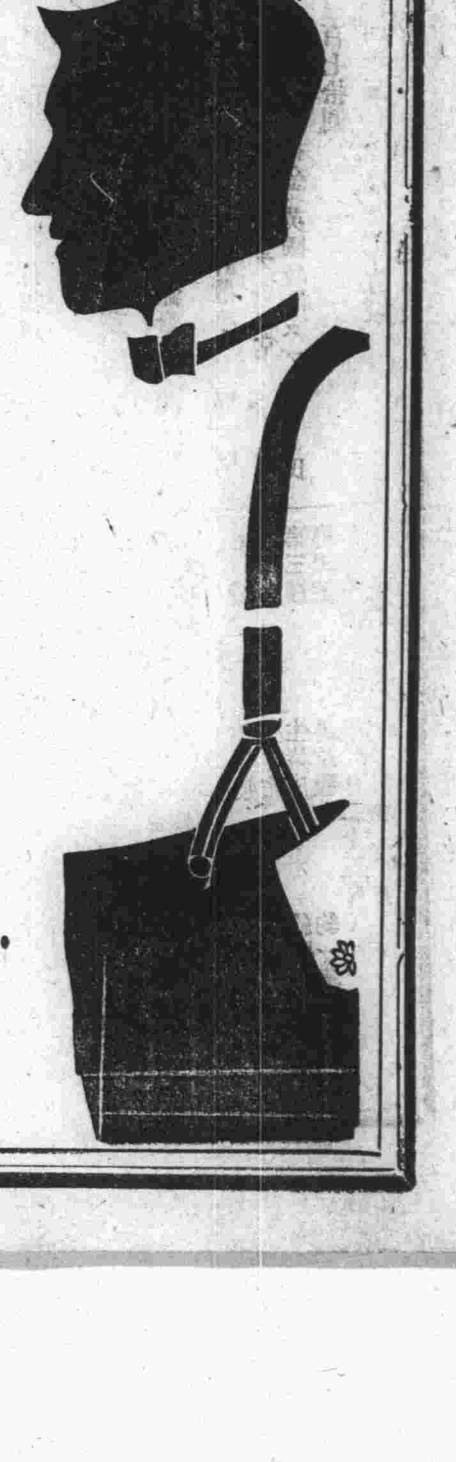
森病院
一 診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一 往診 午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆大道しげ子）
院主 森 獨
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

和洋 會席 御料理
一 弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
二 奉天支店も本店同樣に大勉强仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町 日本館本店（電話百三十番）
奉天小西門外大十字街北入橋町 日本館支店（電話十九番）
各位樣

東營口郵便局東隣 ●島田洋服店●
新民屯停車場前 ●同支店●

御料理 旅館 勉強館
奉天小西關外北長發園隣

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ふも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲げ新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相惟度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合



新着！
舶來ヅボンツリ、新形ネクタイ、流行リボン、
雛人形 東京市松、はこせこ、鏡入、
莨入、蒔繪莨入、手文庫、金庫、支那鞄、柳行李、
元祿模樣、絹首卷、ハンカチーフ、花簪、
鶴香水、ばら白粉、櫛、刷毛、理髮道具類、
春模樣新柄友染、双子縞、銘仙、裏地品々、
營口 加藤洋行（電話八十番）

發賣 料木 標子 木板
塩川商會
淸國營口二本町二五五號
主任 鹽川峰吉（電話一三六番）
遼陽小西門内 鹽川商會

外に
電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
用材北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）二万立方尺餘
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也
●建築

○上等右炭 一噸に付 銀十六圓
○上等日本米 一石に付 銀二十圓
○板材木 ○木炭
○亞鉛板 ○洋釘
○干攄魚 ○石灰
喜久洋行
御小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
永世街八十號（電話百五十二番）

大連 東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

標子 木板 料木 發賣
營口青堆子
清水寧本局

宮門抄

初六日 兵部 太僕寺 廂白旗值日 吏部引 見七十名 山東知府夔華
華謝 恩 兵部奏派查齋
派出敬昌 兜欽 芬車 常山 全福 玉璋 松鶴 黃永安
召見軍機 張學華
練兵處遞封奏三件

論說

論中國排外之氣勢（續）

夫中國無排外之實。言之已詳且盡。當可以釋各國之疑。而解一時之惑矣。而究有不得不爲我國人責者。凡流言之起。必有其原動力或反動力。而不可毒歸咎於嘵嘵之口。而不捫心自問。一溯其致此之由。蓋排外之事。雖爲今日之所無。而昧外之情。實爲國人所時有。置身於天擇物競之場。問法律而不知。問條約而未講。遇有交涉事件。既不能據理以爭。又不能據約以斷。而惟模稜兩可。依回遷就於其間。其卒也。事故猝投。徒鹵莽滅裂以爲之。致受他人之欺而不覺。昧之既甚。而懼之之念以生。或偶知此事在法律上宜爭。在條約上可辦。而辦事之能力未逮。恐一旦決裂。反以招覆敗之尤。不獨懼開罪於列邦。又無以見原於政府。故心存畏葸。即權所應有。利所應得。亦緘默而不發一言。久之益爲外人所挾制。而不敢稍出其範圍之外由昧生懼。由懼生憤。而猜疑迭起。致令外人得所藉口。以爲排外之氣勢。已此露其端倪。我所謂排外之說之必有其原動力者以此。又排外者。與媚外相反對者也。媚外之事不一。媚之人亦不一。上焉者才足以幹事。足力以擅權。而希榮固寵之心。竟奪其爲國効忠之志。於是聯歡與國。假重强鄰。借外人之好以安君。猶復託諳於交涉之名。取重於天下。其卒也爲人所用。損國家之土地而不顧。棄國家之主權而不顧。而幻人跋扈飛揚之氣。乃更潛滋暗長。至一發而不可復收。下焉者。或慕外人之勢力。而入教以爲護符。或羨外人之揮霍。而役身以謀生計。恃其强橫之力。與其便捷之口。與外人相周旋。則即損失其權限。汚穢其名譽。如故也。其依賴之根性。幾幾乎一息尚存。決不可以剗除也。然至與同胞相接。則又[illegible]後若兩人焉。如狐假虎威。如狗仗人勢。陵鑠鄉里。魚肉同胞。至怨之所集。不但及於其身。并疑外人之故縱其惡。而使之肆無忌憚。一逞其淫虐貪暴之爲。而不稍予以節制也。而慘被其毒者。不禁冤抑塡胸。時露不平之氣。排外之說。因之騰播於外人之口。貫澈於國人之耳。則此媚外之人之反動力有以招之也。然爲國民者。亦正宜思患預防。返躬內咎。以銷此風潮於無形之中。而毋貽後來之悔也。今幸日本表以同情。予以忠告。見兎顧犬。亡羊補牢。愼之於此時。或不至撼動我國人仇視外人之心。復演成排外之惡戲。而所以接待之而應對之者。則內政也。外交也。學術也。軍事也。農工商礦之各項實業也。無一非國家之事。即無一非國民之事。上下同心。君民一体。爲和平之運動。而不爲强暴之運動。爲文明之競爭。而不爲野蠻之競爭。外人有欺我國者乎。必尋思其受欺之理。不遽與之爭也。外人有虐吾民者乎。必退想其受虐之由。勿遽與之較也。孟子曰。愛人不親反其仁。禮人不答反其敬。善哉是言。我國人其可以自反矣。又况權利義務之說。爲各國大政治大哲學家所公認。一國有一國之權利義務。國自盡其義務。國自享其權利。他國不得過問也。一國民有一國民之權利義務。民自盡其義務。民自享其權利。他國民不得干涉也。國家之盛衰。人民之强弱。一視文明之程度之高下以爲差。中國之所以不能與各國抗者。坐文明稚弱之弊耳。乘此新政萌芽。新機發現。各盡其心。各盡其力。一躍而與東西列强并駕齊驅焉。則排外之風潮不熄自熄。而國家之氣運日以長。人民之權利日以增。豈非大盛事哉

（已完）

北京電報

●德使館防備匪徒

（西三月初三發）

駐京德國欽使恐有匪徒侵入特自天津搬運巨礮一門安置其使館以備匪徒云

●京師警備

刻京師謠言四出或云革命匪徒五百將侵入城因之政府嚴行警衛各段巡捕皆持槍防備云

東京電報

●加藤外相之辭職

（西三月初三日發）

日前日本內閣對於國家所有鐵路問題互相商議加藤外相因議論意見不合竟捧呈辭表或云現內相原敬君當即轉爲外相云

●俄國開設國會有期

據西電云俄國已決開設國會於西五月十日前當發上諭召集議員云

中外要聞

●開放庫倫之預備　外部議定庫倫開放一俟庫張鐵路修齊即由海關總稅司借欵辦理日前赫稅司至外部會商酌此事云

●擬修盖市場　聞京師地安門外十刹海設立地安市場一所以期商賈雲集得利比河田畝增十倍日前巡警部派員丈量地基亦堪符用然此地向爲奉宸苑所管應先咨行奉宸苑奏准方能修盖市場云

●俄人陰謀駐兵　俄北館消息俄國向年購買庫倫科布多伊犁等處地基均擬圈入修盖教堂聞其中可靠人云實爲駐紮兵丁處所修盖教堂乃遮掩中國耳目也

●兩宮垂詢捐款　日前慶邸暨各軍機及學務大臣呈進捐銀兩　太后垂詢軍機大臣各省督撫何無捐欵慶邸奏對山東山西廣東廣西安徽浙江等省商民均自集股修築鐵路該省督撫亦將國捐欵項歸入鐵路股內是以未能報効國捐銀兩　太后聞奏始轉怒爲喜

●練兵處援例請奬　探聞練兵處王大臣因本處自開辦以來各員均能謹愼從事近日公事之繁倍於曩昔且督飭練軍稽察營制關繫至爲重要所有出力人員應定保奬章程方足以示鼓勵嗣後擬以五年爲期分別優叙請奬以資激勸

●電調參贊續聞　出使俄國大臣胡星使因駐俄使署參贊陸京卿徵爲出使和蘭大臣故特電外部奏調候補道劉觀察士熙爲駐俄使署參贊當外部允准電催劉參贊速行赴俄現聞劉觀察擬不日由滬晉京再由張家口庫倫前赴俄京云

●袁宮保輓潘烈士聯　袁宮保以潘烈士感與國之淪亡傷同種之摧挫目不忍視憤極輕生其情可憫其志可嘉特撰一聯以輓之其辭云吾子已矣同胞奈何可憐志士輕生竟化怒濤飛大海　諸君勉之匹夫有責願結國民團體共扶義櫓挽狂瀾　通州潘生子寅自日本歸道出仁川感韓事憤極投海懷才未展飲恨以終聞其風者當以生之心爲心而竟其未竟之志是即可以善效生者也　項城袁世凱題贈

雜報

●商務調查　由秦王島新發來大尺清水布三百件洋粗布二百餘件昨午後新到頭道江草參十餘車現未出行市又集市上車五六輛元豆六吊五百紅粮五吊四百又邊車共來三四十輛元豆價六吊六百

●斗斛參差　奉天斗斛一處一樣大小不同錦州通江兩處之粮到營每斗付一斗一升鐵嶺每斗付九升瀋陽最小每斗付八升四合盖州每斗付一斗零二合其餘城鎮亦各參差

●穀賤病農　去歲奉吉兩省秋收不及中稔粮價到處皆昂惟錦州獨賤因此該州之民農病殊深即如高粮一物寬城子中錢每斗二十四吊通江口東錢每斗九吊鐵嶺每斗八千瀋陽每斗七千盖州每斗九千營口每斗五千四百錦州每斗三千至二千八百且錦斗比他處俱大其賤可知安得不病農耶

白話

●年大將軍軼事二則　年大將軍羹堯　七八歲的時候跟他老子遐齡在湖北巡撫任上　有一天　他老子不在家江中正是大風浪　羹堯忽要坐船去上黃鶴樓遊玩　家人等屢次攔阻　不聽要去定了　就坐了一隻小船　衝浪前去船小浪大　忽高忽低東斜西歪　險得了不得　幾回要沈下去了　羹堯一點兒不害怕　非到黃鶴樓不成　既到了樓上　開窗四面觀看　頗爲得意　到得下半晚　風勢更大　羹堯下樓　呼解纜開船渡江　衆人不敢違忤　又衝風破浪而回　就有人問他道　這是圖什沒　羹堯答道我正年幼　以後事情正多　這點兒風險　算不了什麼倘若渡不過江　船翻下去　早早兒了這一輩子　也是一件大痛快事　羹堯這個擧動　和訥爾遜小時候大雷大雨一人坐在山上觀看　同是一樣膽魄

又羹堯謫守杭州湧金門的時候　杭人出城進城的　多遠遠的避開　惟有一老貢生走過必向年擧手作揖　見天如是　有一天年叫生來前　告道　看你這人很誠實　我罪重　早晚必死　我有一個愛妾　願託給你　你務必答應　生不肯受　年一定要託給他　生道　我家道寒苦　恐怕養不起　所以不敢　年道那不要緊　明日我就送他到你家來　問明住址　第二天　果然有一乘轎子　來到生家　一美人從轎中出　但帶來抽櫃桌一張　此外一無所有　生大發愁　拿什麼來供給他　到晚上　女告生道我這抽櫃桌內　藏的滿是眞珠寶貝　把他變買掉了　我二人一生吃用不盡了　生第二日早起　打開抽櫃一看　果不然　燦爛照目　就變買了銀子　置辦了許多產業居然一小康人家了

NEWCHWANG, SUNDAY, MARCH 4, 1906.

THE RUSSO-CHINESE CONFERENCE, (PART III.)

Art. IV. of the original Japanese proposals at New Portsmouth read as follows:—

"The Japanese and the Russian Government shall mutually agree to raise no obstacles in the way of China's measures to be adopted, for the common interests of the Powers, for the development of trade and industry in Manchuria."

In a reply submitted by M. De Witte on Aug. 12th. 1905, the Russian Plenipotentiary signified his support for this proposal in the following terms:

"The Russian Government offers an unqualified consent to the principle embodied in this article. Had no agreement of this purport been proposed by Japan, Russia would have considered it her duty to do so on her own initiative."

On the ensuing 15th., in answer to Baron Komura's desire to ascertain what would be Russia's attitude towards the trade centres in Manchuria that were already open or might be opened later to international commerce, the Russian representative promised that Russia would not object to any towns or ports in Manchuria being opened to foreign trade, on condition that this agreement was reciprocal and included Liaotung Peninsula.

This condition was accepted by Baron Komura who declared that Tairen (Dalny) would be also opened to trade on the same terms as had existed under Russian administration.

By the Japan-China Treaty negotiated last December, China has agreed to open 16 places all over Manchuria. In XIII. of her proposals to Russia, she offers, as an expression of courtesy, equal opportunities to the latter at those places. That Russia should be offended in the least at this courtesy would be most incredible. The idea that she should go the length of opposing to any of the places having been fixed without previously consulting her would be most preposterous and self-contradictory, provided the word of the Czar's Chief Plenipotentiary then and present Premier of Russia be of any good.

IV. and VII. bearing on matters in Mongolia and Ili are independent of the Manchurian question.

China has just awakened from the most terrible nightmare of 11 years' duration. She is still shaking from the nervous shock, wet with the cold perspiration of horror. Many a time a cruel death stared her in the face, but so often she has by miracle narrowly escaped. All have been at the bottom the work of Cossack mesmerism. Now she seems to have learned how to dread and abhor him, but never to trust or fraternize with. The fatal spell has been at last broken, on the verge of a certain destruction. She is to all appearances to be deeply thankful for her miraculous liberation and has resolved to turn her regained freedom to the utmost account for the task of reorganization, to the best of her ability. In working out this fresh resolve, she will not miss strong sympathy and support from the Powers that wish to see her start on an honest, sensible career and firmly stand upon her rights. The bitterest experiences have taught her what a dangerous neighbour Cossack has been, bordering on her frontier for a distance of about 4,000 miles.

The existing Kiakta Treaty must needs be revised at once. Each day of delay means farther encroachment by Cossack, taking an open advantage of the boundary line not being clearly defined in the Treaty. With Cossock of the blackest antecedents to deal with, this state of affairs forms the gravest standing menace to her vital interests in those quarters and urges for the most speedy remedy, to which end IV. is specifically proposed.

H. E. Viceroy Gen. Oshina returned to Liaoyang on Friday evening.

Silver has met a check in its course of steady advance. The fluctuations are nominal; still it is interesting to speculate upon what will follow.

EXCHANGE QUOTATIONS—(Mar. 3, 1906).

JAPAN	Bank T.T.	100¼	LONDON	Bank T.T.	2/- 3/8
	" Dem'd	100½		" De'd	2/- 7/16
	P'ate 15 d/s.	101		Cr. 4 m/s.	2/1
SHANGHAI	Bank T.T.	70¾	AMERICA	Bank T.T.	49 ¾
	" Dem'd	71		" Dem'd	50
	P'ate 15 d/s.	72		Cr, 4 m/s.	51¼
TIENTSIN	Bank T.T.	102½		Bar silver	30 7/16
	" Dem'd	102¼			
	P'ate 10d/s.	101¼			

時刻

北の風晴れ　豫報

昨日の氣温　最高温度二十六度四　最低温度六度四
昨年との比　低五度九　高低七度七

雜貨卸商
在元神廟口 營口街
關東公司雜貨部

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、吳服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

石材、碎石
並に自家製造 廉價販賣
瓦、煉瓦
營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

菓子用藥品新着
醫藥賣藥醫療器械
重曹
硼砂
炭酸安母
ヲーラミン其他
東瀛大藥房
營口永世街

澤龜之醇良にして風味高尚なり

札幌ビール 朝日ビール 並ニ
政府專賣口付紙卷煙草 朝日 大和
酢 醬油 瓶詰樽詰
菓子 罐詰 色々
洋酒類 取次販賣

釀造發賣元
宅合名會社
大阪府堺市九間町 本店
北海道小樽湊町 小樽支店
臺灣臺北街書院 臺北支店
臺灣基隆街石牌 基隆支店
臺灣臺南街下南河 臺南支店
北海道函館區辨天町 函館出張店
淸國遼陽城內西街 遼陽出張店
淸國大連監部 大連出張店
淸國牛莊港東營口 營口支店

爲替相場（三月三日）
日本向 一百圓五十錢（軍票百圓に付）
上海向 七十一兩（同）
天津向 一百〇二圓二十五錢（百弗に付）
芝罘向 天津向ト仝

日本品最近物價表 石原商店
一箱ボイル 三十入 銀八圓
一フキ同 同 同五圓五十錢
一福神漬 四打入 同三圓
一上白米 石 同廿二圓八十錢
一美濃紙 同 同六圓八十錢
一大手帳 一打 同一圓
一スコッチ靴足袋 一打 同四圓五十錢
一洗濯石鹸 二十本入一函 同三圓
一同並 二十五本入一函 同一圓八十錢
一毛シャツ上下 打 銀二十五圓より六十圓迄
一白メリヤス上下 打 同八圓より十三圓迄
一首輪 打 同二圓
一毛糸首卷 打 仝三圓五十錢より九圓位迄

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.

本紙定價
一枚ニ付 銀四仙
一ヶ月前金 銀八十仙
半ヶ年前金 四弗八十仙
一ヶ年前金 銀九弗六十仙
廣告 二十一字詰一行一回 銀二十仙

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
營口ブリッジ 綏定商會 東門街
川喜鐵工場

軍隊用雜貨
日用品雜貨
吳服太物類
化粧品類
陶器類
食料品類
卸小賣
其外新荷着精々安價販賣
營口永世街七十號（第二市場東）
石原商店

官製口付莨、文房具
和洋酒類
罐詰、菓子
白米
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰
卸商
防寒具、安價販賣
營口西北街
㊉ 豐生洋行
（電話十三番）

ゼム 口中香藥
ゼムハ著大ナル効能ト愛スベキ美味馥郁タル香氣ヲ有スル良劑
財莱者芳香馥郁而美味可愛靈約也
大日本東京 山崎愛國堂 大藥房處修
大淸國發賣處 淺野大藥房 營口永世街（二本町）
各國有名靈藥總發賣處

雜貨
すし米
醬油
清酒 大樽 半樽
木炭
營口西北街
阪神組

旅館讓渡
新築 客室十五間
雜貨部擴張に付旅館料理の全部營業其儘讓渡し度御企望者は御來談を請ふ
奉天小西邊門外拾間房
浮世館

謹告

昨夜近火の際は早速御馳付被下一方ならざる御配慮に預り候段一々御禮可申上筈なれ共取込中に付乍畧儀以新紙を此段御禮申上候 頓首

永世街 田原洋行

講書 每日曜日の續講
佛說四十二章經
法話
「釋迦牟尼如來の愛」
明三月四日（營口時間）午前十一時始
於西營口 老爺廟布教場

●本日午后六時ヨリ二本町松榮座ニ於テ
●活動大寫眞
●日俄戰況幷ニ餘興元祿踊等種々

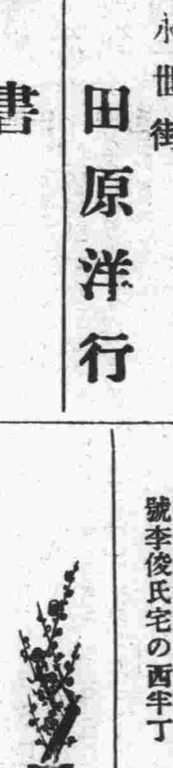
建築請負廣告

弊組儀昨年中官民の建築工事に從事致居候處本年より專管居留地へ各事業家之建築多大なるものと推測し就ては本年より一層事業を擴張し各位の希望に應じ正實と叮嚀を主とし勉強可仕尚構造法等は多額を要せずして強固なる建築法を研究罷在候間建築御希望の御方は御通知次第參堂御相談可申御注文之程偏に奉願候

營口永世街二本町二百五十八號
工棟組

老妓來了
雛妓來了
營口菊水
（電話一二九番）

○フレノロジー
○西洋揣骨相術 運命窮通歷々指陳如神矣
○人々の頭腦を觀測して身の上はんだんをなす
○觀測料隨意
營口豐清門街第四十四號李俊氏宅の西牛丁
利生堂



本店 營口 彌生 電話四一番
支店 彌生 鐵嶺西門外大街
今回新に鐵嶺支店を設け旅館及會席御料理營業仕候間本店同樣御引立之程奉願上候

館主 宮下只七郎
一位置 西門より西の方五六軒北側に候
一構造 室內裝飾等日本式 特別室あり凡て營口本店の設備に比し優るとも劣るとなし
一待遇 は親切と叮嚀を旨とし調理萬端十分注意仕候

營口中央市場前
萬事勉强乘車乘船好位置
旅館 東京樓
店主 熊田兼次郎（電話百七十八番）
卽席和洋料理 東京樓支店（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需應にず